



大久野通信

vol.37

秋の気配

酷暑と自然災害に悩まされた夏が終わり、空の高い位置にうろこ雲が広がって秋の気配が感じられるようになりました。雑草との格闘もそろそろ終盤、昼間でも秋の虫がささやかな音色を奏でています。夕暮れも早くなり、西側を山々に囲まれた活動拠点は余計に早く暗くなります。何か忘れ物でもしたような、少しもの悲しい気持ちになるのがこの時期ですね。

INDEX

01 不思議な光景

02 真冬のイベント

03 今後の展望



01

不思議な光景

ここ数年、みょうがの生息域が急に広がっています。嘗ては沢周辺に自生する程度でしたが、いまは杉林の際まで広がり山道を埋め尽くしています。

もともと沢の適度な湿気がある環境に、数年前より東京都の事業で行われた杉の間伐で日中に若干陽が差す様になりました。結果的にみょうがの成育に適する環境が整ったということなのでしょう。自然界には不思議なことがあるものです。



群生するみょうが



根元にみょうがの花



02

真冬のイベント

12月から4ヶ月間、鈴木さんが竹炭作りを行います。活動拠点で伐採した竹は概ね片付いたので、今年は範囲を広げて廃竹の収集が必要で11月から取り掛かります。「地球を救う園芸キット」には、鈴木さんがコツコツと作った竹炭が入っています。今年は新たに、「家庭で気軽に菜園を楽しみながら、地球温暖化の抑制に貢献しよう」をコンセプトに10Lの竹炭入り培養土を企画しました。プランターとセットにしたスターターキットで、まず北総クルベジさんのイベントなどでサンプル配布をする予定です。



竹炭製造中の鈴木さん



鈴木さんシリーズのラベル



03

今後の展望

「地球を救う園芸キット」で竹炭(バイオ炭)が CO₂削減に繋がることを広める活動を始めて約2年が経過しました。会社関連のネットワークだけでは正直なところ手詰まりを感じていましたので、北総クルベジの喜屋武代表と出会えたことで視界が開けました。

早速、千葉県四街道市の「みんなで地域づくりセンター」さんに繋いでいただき、「エディブルウェイ・プロジェクト(市民参加で野菜をプランター栽培する企画)」で大久野倶楽部のスターターキットを使って頂くことになりました。「食卓から地球を冷やそう」をテーマに、一般財団法人クルベジ協会はカーボンマイナス資材であるバイオ炭を用いた野菜の栽培を全国で展開しています。喜屋武代表が率いる北総クルベジ・ファーマーズは千葉地区の協賛農家さんと構成された組織で、クルベジ・ブランド野菜の販売で成功されています。国産有機肥料としてRBSゴールドにも興味を示して頂いており、白茄子栽培で試用し高評価をいただきました。この流れでRBSゴールドの良さを多くの農家さんに実感して頂けたら……大きな夢を抱く大久野倶楽部です。